

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 758 号 令和 6 年 7 月

目次

○令和 6 年度山口県獣医師会定時総会開催報告（会長理事）	1
○令和 6 年度会報編集委員全体会議開催報告（常務理事）	5
○下関市との「災害時における動物の救護に関する協定」の締結について（常務理事）	6
○第 3 代会館の新築に祝意と期待（山口支部 山縣 宏先生）	7
○タイの畜産関係施設を訪問して（1 / 2 報）（岩柳支部 三好雅和先生）	8
○近況報告（豊浦支部 前田翔一先生）	10
○リレー随筆「対水害住宅」（県庁支部 浅沼康之先生）	11
○第 51 回中国地区獣医師大会・令和 6 年度獣医学術中国地区学会の開催について	12
○山口県獣医学会における発表用スライドの作成について	12
○岩崎 明先生のご逝去を悼む（山口支部 藤原宣義支部長）	13
○事務局だより	13

令和 6 年度山口県獣医師会定時総会開催報告

会長理事 田 中 尚 秋

去る令和 6 年 6 月 9 日(日)、山口市湯田温泉の防長苑（2 階「孔雀」の間）において今年度定時総会を開催した。今回は、総会等終了後、情報交換会（交流会）を開催するなどの事情により午後 2 時からの開会とした。

開 会

まず始めに令和 5 年度の物故者（山口大学支部：豊福 肇先生、山口支部：福島和彦先生の 2 名）に対する黙祷を行った後、小職から、総会出席への謝意と平素からのご支援・ご協力等に対する感謝等を申し述べたあと、正月早々に発生した能登半島地震による被災者へ哀悼の意・お見舞いを申し述べ、災害が多発する中、昨年、山口県との災害時動物救護協定を締結したが、中核市である下関市が除かれていたため、今般、6 月 6 日（木）、下関市と協定を締結したことの紹介を行った。また、韓国（特に釜山）でアフリカ豚熱が猛威を振るっていることから、交流が盛んな当県としては、更なる水際対策が望まれること、他に新獣医師会館の具体的建設計画等を伝え、引き続き会員諸氏のご協力をお願いしたい旨の挨拶を行った。

表 彰 式

続いて表彰式に移った。本会の発展等に寄与され、表彰された先生方は次のとおりである。

（※敬称略。所属支部は令和 5 年 3 月 31 日現在）

○山口県獣医師会会長表彰(功労者表彰)

新田 直正（防府） 松田 明久（宇部厚狭）
大山 昌志（長北） 松本 容二（豊浦）
○狂犬病予防注射指定獣医師従事感謝状
弘津 和之（熊毛） 松田 美和子（山口）
杉山 容子（宇部厚狭） 福田 礼子（長北）
村上 雅之（下関）

受賞の先生方には、心から祝意と敬意を表し、今後ますますのご活躍を祈念したい。長年狂犬病予防注射にご貢献いただいた先生方に感謝状を贈ることとしたのであるが、今回は皆様ご欠席であり、たいへん残念であった。

昨年度末をもって美祢支部が解散され、宇部厚狭支部も宇部支部と改称されたことから、宇部厚狭支部としてのご所属は今回までとなることを付記しておきたい。

来賓祝辞

表彰式の後、村岡嗣政 山口県知事の代理としてご出席いただいた山口県農林水産部次長の内藤雅浩様、柳居俊学 山口県議会議長代理としてご出席いただいた山口県議会農林水産委員長の手康弘様、山口大学共同獣医学部長 度会雅久様からそれぞれ来賓祝辞を賜った。ほかに来賓としてご臨席賜ったのは、衆議院議員 内閣官房長官 林 芳正様代理として秘書の富村浩一様、衆議院議員 外務大臣政務官 高村正大様代理として秘書の大賀廣史様、衆議院議員 岸 信千世様代理として秘書の福田浩美様であった。ご欠席で

あった吉田真次様を含め衆議院議員の皆様方からは祝文を賜ったことをご披露しておきたい。

ご来賓6名の皆様にご退席いただき（度会先生は会員として交流会までご出席いただいた）、暫時休会した後再開し、酒井 理常務理事から現在の会員数379名（議決権を有する会員数376名）に対し、出席者54名、委任状の提出者181名で、出席者235名となり、定款第17条第1項の規定に基づく定足数の過半数を満たし、総会が成立することが報告され開会が宣言された。なお、理事13名、監事3名は全員出席であった。

議 事

- 第1号議案 令和5年度事業報告について（報告事項）
- 第2号議案 令和5年度決算について（承認事項）
- 第3号議案 令和6年度事業計画書について（報告事項）
- 第4号議案 令和6年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みに関する書類について（報告事項）
- 第5号議案 令和6年度会費の額及び徴収方法について（承認事項）

そ の 他

議長を選出並びに議事録署名人の選任

小職が仮議長を務め、議長に山口支部の藤原宣義先生を選出し、藤原議長は、議事進行について協力を求め、定款第18条第2項に規定される議事録署名人を議長のほか出席理事から2名を選任した。被選任者らは即時これを了承した。続いて書記2名を指名し、当該人らはこれを了承した。なお、議事録作成者は書記の酒井常務理事とされた。

議 長	藤原 宣義（山口支部）
議事録署名人	藤原 宣義（議 長）
	田中 尚秋（理 事）
	中村 滋（理 事）
書 記	石井 俊昭理事（山口支部）
	酒井 理常務理事（山口支部）

議案の審議経過

藤原議長により次のとおり議案審議が進められた。

第1号議案 令和5年度事業報告について（報告事項）

藤原議長は、事務局に説明を求めた。

酒井常務理事は、まず重点実施事項について説明し、令和5年度事業について、会員の動き、各種会議等の開催、学会の開催、講習会の開催、SFTS対策（9例の陽性事例（すべて猫）について本会ホームページに掲載）、狂犬病予防等、各種事業の実施状況等について総会資料に沿って詳細に説明した。特に今回、山口獣医学雑誌は第50号という節目となることから記念座談会を開催しその模様を掲載していることの紹介があった。

これに対し藤原議長が質疑・意見等の有無を諮っ

たところ、皆無で、報告を終了した。

第2号議案 令和5年度決算について（承認事項）

藤原議長は、事務局に説明を求めた。

酒井常務理事は、令和5年度決算について貸借対照表及び正味財産増減計算書について、財務諸表に対する注記、附属明細書、財産目録を参照しながら説明した。貸借対照表では、前年度との資産状況の比較説明を行い、正味財産増減計算書では、経常収益・経常費用について、前年度と比較し、特に増減が大きかった費目を中心に、その理由等を説明した。

以上の説明に続き、藤原議長は、監事に監査報告を求めた。

＜監査報告＞

監事を代表して白銀政利監事から、令和6年5月1日(火)、山口県獣医師会館において、令和5年度事業及び会計について監事3名で監査を行った結果、事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認められたこと、また、理事の職務の執行に関する不正の行為、法令等に違反する重大な事実は認められなかったこと、さらに、計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認められた、との監査報告があった。

藤原議長は、本議案に対し質疑、意見の有無を諮ったところ、特に質疑等はなく挙手により賛成多数で決議された。

第3号議案 令和6年度事業計画書について（報告事項）

藤原議長は事務局に説明を求めた。

酒井常務理事は、家畜伝染病の発生、動物由来感染症対策、チーム獣医療提供体制の構築等、様々な課題がある中、公益社団法人として、関係機関・団体等との連携により、獣医学術の振興・普及等を図っていくという方針のもと、学会開催・参加、山口獣医学雑誌の発刊、講習会の開催、家畜衛生・畜産振興支援、公衆衛生の向上・普及啓発等、令和6年度の具体的な事業計画について説明した。

また、新たな獣医師会館の取得について、検討会議を設置し8回の検討を行ったこと、途中で総務委員会、支部長会議、理事会で説明し、現在の場所に建て替えること、会館建設に係る予算措置等について承認いただいたこと等を報告し、今後のスケジュール（6月仮事務所へ移転、7月現会館解体工事着工、8月新会館建築工事着工、令和7年2月工事完了予定）等について説明した。

これに対し藤原議長が質疑・意見等の有無を諮ったところ、皆無で報告を終了した。

第4号議案 令和6年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みに関する書類について（報告事項）

藤原議長は、事務局に説明を求めた。

酒井常務理事は、令和6年度収支予算書を基に、

経常収益・経常費用について、前年度と比較し特に増減が大きい費目を中心にその理由等を説明した。

特に、設備投資の見込みについて、新獣医師会館取得のため減価償却引当資産及び会館取得資金55,395,000円全部の取崩しを行う予定である旨を説明した。

これに対し藤原議長が質疑・意見等の有無を諮ったところ、皆無で報告を終了した。

第5号議案 令和6年度会費の額及び徴収方法について（承認事項）

藤原議長は、事務局に説明を求めた。

酒井常務理事は、議案書に基づき、令和6年度の会費は、一般会費：年額20,000円、特別会費：1頭当たり350円で、いずれも昨年と同額であり、納入方法も昨年度と変更はないこと、また、「会員の休会に関する規程」に基づき、会費納入期限までに休会申請を行った者は、会費を免除すること、新入会員について、今年度から入会金は徴収しないこととしたことを説明した。

これに対し藤原議長は、本議案に対し質疑、意見の有無を諮ったところ、特に質疑等はなく挙手により賛成多数により決議された。

その他

藤原議長は、提案議案や質疑等の有無を諮り、皆

無であることを確認した。

議長退任の挨拶

藤原議長は、議事が円滑に終了したことへの謝辞を述べ、議長退任の挨拶を行った。

閉会

白永伸行副会長理事が総会出席・審議への謝辞、本会運営への会員の協力を依頼し、定時総会の閉会を告げた。

以上のとおり、令和6年度定時総会は、午後3時20分滞りなく終了した。

情報交換会（交流会）

引き続き山口県獣医師連盟通常総会、今年度第2回理事会を開催（新入会員2名の承認）したあと、交流会を開催した。

公益法人となって初めての総会後の交流会であったが、職域、仕事上の情報交換、自己紹介等で盛り上がり、大変有意義な場となった。職場での懇親会等が敬遠されるようになってきている昨今、職場、上下関係等、全然“しがらみ”を感じなくても良い我々の交流会は、それなりに意義のあることと強く感じた次第である。できれば、今後も継続してまいりたいので、来年度はさらに多くの会員の皆様のご出席を期待したい。



山口県獣医師会会長表彰を受賞された先生方



代表で表彰状を授与された新田直正先生(防府支部)



山口県知事挨拶を代読される
山口県農林水産部 内藤雅浩部次長



山口県議会議長挨拶を代読される
山口県議会農林水産委員会 山手康弘委員長



挨拶される山口大学共同獣医学部
度会雅久学部長



議事進行される藤原宣義議長（山口支部長）



監査報告される白銀政利監事



定時総会会場の様子



閉会挨拶をされる白永伸行副会長



交流会で乾杯される山口大学支部 佐藤晃一先生



交流会中締め挨拶をされる県獣医師会前副会長
中越一郎先生（宇部支部）



交流会会場の様子

令和6年度会報編集委員全体会議開催報告

常務理事 酒 井 理

令和6年6月20日(木)、山口市小郡地域交流センター2階大ホールにおいて、令和6年度会報編集委員全体会議が開催されました。

会報編集委員の任期満了に伴い、各支部から推薦された新たな編集委員（任期：令和6年6月1日～令和8年5月31日）により、次の議題について、協議していただきました。

議題1：山口県獣医師会令和6年度事業計画について

議題2：山口県獣医師会報について

議題3：常任編集委員の選任について

議題4：編集責任者（委員長）の選任について

常任編集委員は、防府支部の豊川 剛先生、山口支

部の福岡 恒先生、宇部支部の中越一郎先生、豊浦支部の前田翔一先生、山口大学支部の上林聡之先生と私が担当することとなりました。

また、編集責任者を、豊川 剛先生にお願いすることとなりました。

これから2年間、新メンバー3人を加えた6名の常任編集委員により、会報編集作業に取り組みますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

毎月発行している会報には、本会主催の会議や講習会等の案内や報告、日本獣医師会や県等からの情報、各支部からの投稿、会員からの紀行・見聞等を掲載しています。皆様の積極的な投稿をお願いします。

会報編集委員原稿担当月

支部名	氏名	所属等	原稿担当月		
岩柳	柿原 新	柳井農林水産事務所畜産部 (東部家畜保健衛生所)	-	R6. 10	R7. 8
熊毛	菅原 淳也	菅原獣医科医院	-	11	9
徳山	藤原 果南	周南市立徳山動物園	-	12	10
防府	◎豊川 剛	とよかわ動物病院	-	R7. 1	11
山口	○福岡 恒	山口農林水産事務所畜産部 (中部家畜保健衛生所)	-	2	12
宇部	○中越 一郎	なかこし動物病院		3	R8. 1

支部名	氏名	所属等	原稿担当月		
長北	米津 悟	長門健康福祉センター (長門環境保健所)	R6. 6	4	2
豊浦	○前田 翔一	下関農林事務所畜産部 (西部家畜保健衛生所)	7	5	3
下関	原田 秀明	なつ動物病院	8	6	4
県庁	大山 ゆき	山口県農林水産部畜産振興課	随時	随時	随時
山大	○上林 聡之	山口大学共同獣医学部	9	7	5
(事務局)	○酒井 理	(公社)山口県獣医師会	全月	全月	全月

◎編集責任者 ○常任編集委員



どうぞよろしくお願ひ申し上げます

下関市との「災害時における動物の救護に関する協定」の締結について

常務理事 酒井 理

令和6年6月6日(木)、下関市長応接室において、下関市と本会との標記協定の調印式が行われましたので報告します。

本会では、昨年6月、山口県と「災害時における動物の救護に関する協定」を締結しましたが、中核市である下関市は県の管轄外となるので、改めて下関市と協定を締結したものです。協定書の内容は、県と同様です。

調印式には、下関市から、前田晋太郎市長、八角誠保健部長、渡邊利絵保健所長、本会から、田中尚秋会長、白永伸行副会長、山中俊樹下関支部長と私が出席しました。

下関市動物管理センターの久永裕三センター長の司

会進行により、出席者の紹介の後に、田中会長の挨拶、前田市長の挨拶に続き、両者により協定書への押印がなされました。田中会長と前田市長の挨拶は下記のとおりです。

県の要綱・要領に沿って、昨年11月本会の「被災動物救護実施要領」を定めましたが、下関市において今後検討される実施要領等の内容を踏まえて、本会の実施要領の改正作業を行う予定としています。

災害時の動物救護については、避難所を設営する市町の受け入れ体制の整備はもちろんですが、「ペットの健康管理や基本的なしつけ、所有者明示」等、平時からの飼育者の取組が重要であることから、県や市町と連携し、啓発していくこととしています。

挨拶概要

《前田市長》

(公社)山口県獣医師会には、平素から本市動物愛護管理業務の推進に多大なるご理解とご協力をいただき、御礼申し上げます。

今年1月には石川県能登地方で、4月には台湾や豊後水道で大規模な地震が発生し、本市においても昨年夏に豪雨災害が発生するなど、市民が避難しなければならない災害が毎年のように起こっている中で、近年は動物愛護の考えが広く浸透し、ペットは家族の一員という認識も増えている。

東日本大震災の時には「ペットとの同行避難」という考え方が浸透しておらず、やむを得ず放された犬や猫が野良犬、野良猫となり、無秩序な繁殖や生活環境への悪影響を及ぼした事例もあった。

この度、本市と山口県獣医師会様との間で協定締結に至ったことにより、被災した犬や猫等の飼育動物やその飼い主に対する支援とそれに伴う避難や人命救助等がスムーズに行われることが期待され、また、被災地域の生活環境保全と動物による咬傷被害軽減にも繋がり速やかな市民生活再建に繋がるものと強く感じている。

近年、災害が激甚化、頻発化しており、本市においても、いつ災害に見舞われるかわからない状況である。もしもの時に備えて、山口県獣医師会様との連携を図り、本市の動物愛護管理の適正化に更に努めてまいりたいと考えている。

我が家でも犬を飼うようになって、家の中が明るくなり、家族の一員としてかけがいのない存在になっている。

《田中会長》

私ども山口県獣医師会は、公益社団法人として、獣医学術・獣医療技術の振興・普及等を基盤として、畜産の振興や公衆衛生の向上など、広く公共社会に貢献するための諸事業を行っている。

災害時における動物救護対策については、市民公開講座の開催や、県との共催による同行避難訓練の実施など、本会事業の柱の一つとして取組みを進めてきた。

災害発生時は、当然、人の命と暮らしを守ることが最優先となるが、多くの世帯でペット動物が飼育されている現在、命あるペット動物の救護対策がより重要となっている。

このため、災害時の動物の救護の円滑かつ迅速化に向け、昨年、山口県と本会とで、負傷した被災動物の治療や、避難所における被災動物の健康管理等についての協定を締結し、保健所や市町との連携体制を強化した。

本日、下関市と災害時の動物救護に関する協定を締結させていただくことは、誠に時宜を得たもので、大変心強く、喜ばしく思う。

本会としては、災害発生時はもちろん、飼い主への啓発や同行避難訓練など、平時からの取組についても、県や市町と連携して、全体的な取組を進めていきたいと考えているので、よろしく願います。



協定書を手にもつ前田市長と田中会長



記者クラブで囲み取材を受けられる田中会長

第3代会館の新築に祝意と期待

山口支部 山 縣 宏

プロローグ

県獣医師会は第2次世界大戦（WWⅡ）中の勅令団体（敗戦後、日本占領連合国総司令部GHQの命令で解体消滅）、敗戦後の社団法人（獣医協会→獣医師会）の時代を通じ、昭和47年5月まで自前の会館を所有していなかった。半世紀以上に亘って、農業団体の社屋の一隅に事務機2個を置く、いわゆる“間借り人”形式の事務所を置いて過ごしてきたのである。

往時茫々、記憶の断片を拾って会館供用の流れの一端を書き残しておく。

初代会館

昭和47年5月、山口市へ移転した裁判所の登記事務所土地、事務所（明治時代の建築で、雨漏りと床板陥没激甚の空家）を、小郡町の斡旋で買取り、解体、整地して会館を建てることとなった。

昭和48年6月に新築工事が始まるまでの約1年間余、初めての自前の会館として、大、小の修理をしながら会務に供用された。

この初代会館の供用に関連したエピソードは、多々あるが、別日別途に記載する機会もあろうと思っている。この当時の理事の生存者は筆者1人で、時の流れを痛感する昨今である。

第2代会館

昭和48年6月、折しも梅雨の真最中、大雨の中、雨漏りと床板陥没の初代会館に午後7時、当時の理事全員が出席して第2代会館の新築工事の入札に立会したことが今も鮮明に記憶に残っている。

惟うに、昭和48年11月、第2代会館の供用開始以来50年余、学会、講習会、研修会の開催、月刊会報、学会機関誌の発刊、等々、多種多様な会事業は、拠点としての会館の存在が有ったから可能であったと改めて思考される。

第2代会館の名称が供用開始後、約10年余、山口県獣医畜産会館とされていたが、会員の寄附金に拠る建築であって、畜産関係の寄附がゼロであることから、年次総会での決定として山口県獣医師会館と改称された経緯もあった。

エピローグ

このたびの第3代会館の新築は慶賀の極みであり、初代、第2代会館同様に、否、それ以上に獣医学、獣医師、獣医業の発展に寄与する活動の拠点となることを切に願っている。

新築工事は、明年2月完工予定とされているが、新会館の然るべき壁面に、銅又は真鍮の建築碑銘板の設置を提言して拙文の結びとしたい。



建築当時の現獣医師会館（第2代会館）

タイの畜産関係施設を訪問して（1／2報）

岩柳支部 三好雅和

本年3月末で家畜保健衛生所の嘱託勤務を終了し畜産の現場を離れたことから、個人的な懸案であった海外の研究施設や農場の視察に行きました。旧知の三澤博士（宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター特別教授・名誉教授。現在タイと日本が取り組んでいる「SATREPS[®]の家畜生産と食品安全に関する新技術導入推進に係る共同研究」の統括。）に御協力を頂き5月中旬にタイを訪問しました。訪問先はタイ国動物衛生研究所、チェンマイ大学獣医学部、チェンマイの農場ですが、時間が限られていたため寄生虫関連の情報や口蹄疫の対応を中心に視察をしました。

※Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）

【タイ国動物衛生研究所】

バンコク郊外のカセサート大学の敷地内にあり、SATREPS[®]の拠点もここに 있습니다。所長への表敬挨拶後に寄生虫セクションを見学しました。スタッフの大半が若い女性の獣医師、検査技術者であり、リーダーも若い元気な女性でした。

ここでは年間約5,000件の血液検査や糞便検査の依頼があり、種の同定やサーベイランスが主な業務でした。血液塗抹標本が並べてあり「何の診断ですか？」と質問すると「トリパノソーマ イーバンシイ？」と早口での回答。どんな種類か理解できないので筆談すると*Trypanosoma evansi*（スーラ病の病原体）の話でした。学生時代にはエバンストリパノソーマという単語で覚えていましたが……。同定は血液塗抹標本→IFA→PCRという流れでしたが、トリパノソーマ症がかなりあるような話でした。

一方、興味があった反芻獣の消化管内線虫、肝蛭などの現地での寄生状況について聞いたところ、当セクションが現場と離れた立ち位置にあるためか詳しい情報を確認することができませんでした。ただ、牛や山羊の消化管内線虫の駆虫薬（イベルメクチン、ベンズイミダゾール）に耐性がかなり出ているような情報もありました。私の周辺では現時点では耐性が問題となった話を聞いたことはありませんが、世界的にも同様の報告があり今後は日本国内でも問題となるかもしれません。

一方、標本棚には顎口虫、条虫、吸虫など多数の標本がありました。双口吸虫の標本も多く、私が過去によく見た勾玉型の虫だけでなく、円筒型の虫の標本も多数ありました。

リーダーの業務の関係で非常に短時間の視察でしたが、スタッフの皆さんの若くてエネルギッシュな姿勢に圧倒されました。



（写真1）タイでは曜日によって服の色を変えるようで、訪問した日が月曜日だったことからスタッフ全員が黄色のシャツでした。後列左から3人目：筆者、4人目：三澤博士。



（写真2）研究室前の標本棚、右は寄生虫セクションのリーダー（キャン先生）。

【チェンマイ大学獣医学部】

動物衛生研究所視察の後、バンコクから約600km離れたチェンマイへ飛行機で移動しチェンマイ大学獣医学部を訪問しました。三澤博士の共同研究者である先生方の御案内で、解剖・病理博物館、ラボラトリーサービス、病理解剖実習室、魚病学実習室、寄生虫学研究室などの施設を見学しました。

（1）解剖・病理博物館（写真3、4）

家畜はもとより、キリン、象、カンガルー、イルカなど多種多様な野生動物の骨格標本があり、興味がある人なら1日中見学したいような標本群でした。象の骨格標本を初めて見ましたが、その迫力には圧倒されました。なお、大学には象の診療を専門に行う獣医師が2名いる、とのことでした。



(写真3) キリンの剥製、骨格標本



(写真4) 馬、象の骨格標本

(2) ラボラトリーサービス (写真5)

大学では獣医師や農場からの依頼で様々な検査を行っており、ASF（アフリカ豚熱）、AHS（アフリカ馬疫）、ILT（鶏伝染性喉頭気管炎）、IB（鶏

伝染性気管支炎）、EIA（馬伝染性貧血）の検査と証明書の発行も行われていました。また、口蹄疫の検査も実施しており、もし陽性になった場合はDLDD（Department of Livestock Development、国の家畜衛生・公衆衛生部門の担当部署）に報告するような仕組みでした。なお、口蹄疫が陽性となった場合の対応については、VRDC（Veterinary Research and development Center、DLDD内の一組織）が対応する、とのことでした。



(写真5) 左からユイ先生、センター主任、三澤博士、筆者、スタッフ。

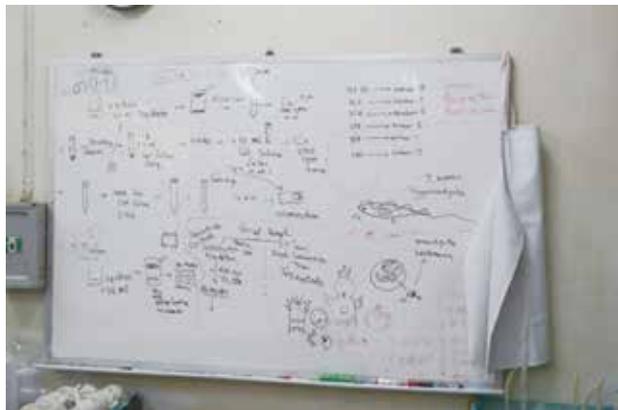
(3) 寄生虫学研究室 (写真6、7)

寄生虫学研究室を訪れると数名の若い女子学生が在席しており勉強していました（あまりに一生懸命であり声をかけられず）。ホワイトボードに糞便検査の方法、血液塗抹検査でのトリパノソーマのトリポマスティゴートやリーシュマニアのアマスティゴートの所見が描いてあり、寄生虫学の勉強をスタートしたばかりの感がしました。なお、ホワイトボードには「擬人化した鶏やアマスティゴート」の絵もあるなど、学生さんらしい若さが垣間見えました。その後、標本を見学してもらいましたが、日本の大学の研究室と同様の感じでした。タイでは存在しないと思う寄生虫を含め多数の標本が所蔵されていました。その中にパンダの回虫（*Baylisascaris*、種名は記載なし）の古い標本があり、由来を聞くと海外の動物園からのものでした。

研究室には住血原虫対策としてのダニ関係のポスターがありました。その中で、有機リン系やピレスロイド系殺ダニ剤に抵抗性があるダニにも有効な殺ダニ剤としてTacticが記載されていました（アミトラズ製剤：日本国内では現時点、農薬としての登録はあるものの動物用医薬品では蜜蜂の殺ダニ剤としての登録のみ）。なお、バベシア病の治療薬としてはイミドカルブ（日本でバベシア病、タイレリア病の治療薬として用いられるガナゼックと同様の成分）が使用されるという話でした。ちなみに案内をいただいたユイ先生はバベシアのワクチンを研究されているとのことでしたが、私のpoor Englishでは詳しい内容は???でした。またサシチョウバエのサーベイランスのポスターもあ

り、住血原虫対策にかなり取り組まれていることが伺えました。

一方、肝蛭対策について尋ねると「Ivomec Plus」という薬剤を使用しているとのこと、スマホの画面で説明してくれました。本製剤はイベルメクチン（線虫駆虫薬）＋クロルスロン（ベンゼンスルホンアミド系の肝蛭駆虫薬）であり、皮下注射で投与する薬剤でした。



（写真6）研究室のホワイトボード。マックマスター法、トリパノソーマやリーシュマニアの形態などが書かれており、「学生さん、勉強中」といった感じでした。

1回の処置で線虫と肝蛭の駆除をする目的で使用されているのでしょうか。なお、日本でも肝蛭駆虫用の注射薬がかなり前にありましたが、現在は動物用医薬品の登録から外れています。

当然なことですが、国や地域で問題となる寄生虫も異なっており、使用する駆虫薬やその組み合わせが異なることが良く理解できました。



（写真7）牛に寄生するダニの種類及び住血原虫の啓蒙用ポスター（ヘキスト社、英語）。

近況報告

豊浦支部 前田 翔一

（下関農林事務所畜産部）

みなさまこんにちは。豊浦支部の前田です。私がこの原稿を作成している6月18日現在、山口県は梅雨入りしており、暑くジメジメした日が続いていますがみなさまいかがお過ごしでしょうか。私自身このジメジメした気候が非常に苦手なため、この会報が発行される頃には梅雨が明けていることを願うばかりです。

さて、標題にもありますとおり近況報告をしますと、昨年度から異動もなく、引き続き西部家畜保健衛生所保健防疫課にて業務に励んでおります。所属は昨年度と変わりませんが人事異動により所内の雰囲気ガラッと変わったこともあり、新鮮な気持ちで日々を過ごしております。

また、プライベートでは2月に長女が誕生しました。2ヵ月ほど育児休暇を取得し、妻と二人三脚で育児に臨みました。この2ヵ月の間は毎日娘の成長を間近で見守ることが出来たので、とても貴重な時間を過ごすことが出来ました。

長期の休暇取得を受け入れてくれた西部家畜保健衛生所の皆様には感謝してもしきれません。

職場に復帰してからも、娘から目を離すことが出来ません。子供の成長は早いもので最近になって何

かしらの言葉を発してこちらとコミュニケーションを図ろうとするようになりました。今では、朝の出勤前と夜の帰宅後に会話をするのが日課となっています。

今後も日々の変化に注視しながら健やかに過ごせることを願うばかりです。

余談ですが、我が家ではウサギを飼っています。長女が生まれてから遊んであげる時間が減ってしまい、とても不機嫌そうにしています。何か良いご機嫌取りの方法がありましたらご教示いただけますと幸いです。



リレー随筆

対水害住宅

県庁支部 浅沼 康之
(県環境保健センター)

5月某日、職場の先輩である亀山さんから「浅沼くん、ちょっと時間ある？仕事の話じゃないんだけど・・・」と聞かれ、「お？飲みの誘いか！」と思っていたら、「獣医師会報で今月、私がリレー随筆書くことになって、次をお願いしたいんだけど」（亀山）。「・・・、そっちか！」と、まあ、こんな感じでバトンを受け取った環境保健センターの浅沼です。前回まで、生まれ故郷である南大東島のことを書いていましたが、もう話題も尽きてきたので、違うことを書いてみようと思います。

さて、前置きが長くなりましたが、皆さんは対水害住宅ってご存じですか？最近では毎年のように、どこかの地域で大雨による河川の増水等によって床下浸水、床上浸水が起っています。そういった水害に対応できる家はないかと調べたところ、一条工務店が対水害住宅という商品を出していましたので参考までご紹介します。(CMも流れているので知っている方もいるかもしれませんが。)

一条工務店の対水害住宅は、浸水、逆流、水没、浮力の4つのポイントで水害を防止しています。

浸水対策：床下、壁、玄関、窓から水が入る隙間をなくし、家の中に水が浸入することを防ぎます。

逆流対策：床下の排水管に逆流防止弁が装備されており、水害によって水かさが増し、汚水が逆流した際には自動で弁が閉じて、汚水が家の中に流れるのを防ぎます。

水没対策：エコキュート、室外機、蓄電池等の水に弱い電気設備を地面から高い位置に設置し、水没による故障を防ぎます。

浮力対策：2タイプによって防ぎます。

①スタンダードタイプ：

建物が浮上する水位に達する前に床下に水を引き込み、水を重りにして浮力に対抗する。(床下の許容量を超えた場合、床上浸水する可能性はあります)

②浮上タイプ：

船を港に係留するように、家を敷地内の四隅に設置したポールと専用のチェーンでつなぎ合わせる。家が完全に水没するような水害に見舞われても被害を最小限に抑えられるように、あえて家を浮かす。(コンクリート基礎の上に家が乗っており、増水して浸水深1m以上になるとイメージ図のように浮きます。家をポールと専用のチェーンで繋ぎ合わせているので、家が流されることはありません)



家が浮いた後、木々の上に家が着地した場合、どうするの？と疑問が生じましたが、問題ないようです。着地の際に基礎の位置がずれた場合や、木々等の漂流物が挟み込まれた場合は、一条工務店が専用のジャッキを持ってきて家を持ち上げ、引き戻し復旧工事、漂流物の撤去作業を行うそうです。(ただし、有料。金額はそのときの状況によって変動。)

一口に家と言っても、いろんな形や機能をもった家がありますが、水害に対応するため強く、流されない家だけではなく、家を浮かせるって発想があったんだと衝撃を受けました。

今回は、庁舎は違いますが4月から同じ環境保健センター勤務で後輩の木下友里恵先生にバトンタッチします。

第51回中国地区獣医師大会・令和6年度獣医学術中国地区学会の開催について

このことについて、下記のとおり開催されますのでお知らせします。開催計画は、本会ホームページに掲載しています。

参加を希望される方は、9月25日(水)までに本会事務局に連絡して下さるようお願いいたします。

本会会員の学会参加費(2千円)及び発表される会員の交通費・宿泊費は、本会が負担しますが、歓迎交流会参加費は、自己負担となります。

1 期日及び場所

令和6年10月19日(土)～20日(日)

松江テルサ(松江市朝日町)

2 特別講演

日 時：10月19日(土)14:20～14:50

講 師：農林水産省職員

演 題：「獣医師職業倫理の最近の事情や課題」

3 市民公開講座

日 時：10月19日(土)15:00～16:20

講 師：(公社)福岡県獣医師会副会長
今村和彦先生

4 第51回中国地区獣医師大会

日 時：10月19日(土)16:30～17:50

内 容：表彰、大会議事 等

5 歓迎交流会

日 時：10月19日(土)18:20～20:20

場 所：松江エクセルホテル東急2階 オーク

6 獣医学術中国地区学会

(1) 日本産業動物獣医学会(中国地区)

第1日目：10月19日(土)1階テルサホールA
受付12:00～

第2日目：10月20日(日)1階テルサホールA
受付8:30～

(2) 日本小動物獣医学会(中国地区)

第1会場：10月20日(日)1階テルサホールB
受付8:30～

第2会場：10月20日(日)1階テルサホールC
受付8:30～

(3) 日本獣医公衆衛生学会(中国地区)

第1日目：10月19日(土)4階大会議室
受付12:00～

第2日目：10月20日(日)4階大会議室
受付8:30～

7 ランチョンセミナー

日 時：10月20日(日)12:10～12:50

場 所：テルサホールA(産業動物獣医学会)
テルサホールB(小動物獣医学会第1)

8 参加費

区 分	学 会	歓迎交流会
本 会 会 員	2千円	5千円
学 生 ・ 動 物 看 護 職	2千円	4千円
そ の 他	5千円	6千円

山口県獣医学会における発表用スライドの作成について

今年度の県獣医学会の開催については、本会会報令和6年5月号に、開催要領・講演要旨記入要領を掲載して発表をお願いしたところですが、6月6日に島根県で開催された獣医学術中国地区学会幹事会において、獣医学術中国地区学会における発表用スライド作成時の留意事項が追加されました。

本県の獣医学術中国地区学会発表演題は、県獣医学会終了後に開催される学会運営委員会において選考されていることから、県学会における発表用スライドについても、これに準じて作成して下さるようお願いいたします。

○県 学 会 開 催 日：令和6年8月25日(日)

○県 学 会 開 催 場 所：防長苑(山口市熊野町)

○講 演 要 旨 の 提 出：令和6年7月30日(火)まで

○発表用ファイルの提出：令和6年8月21日(水)まで

発表用スライド作成の留意事項(獣医学術中国地区学会開催要領抜粋)

- ・発表スライドのサイズは16：9及び4：3に対応する。ただし、4：3の場合は文字サイズや画像サイズが小さくなるため、横長サイズの16：9の作成を推奨する。
- ・画像レイアウトのバランス異常を防ぐため、次のフォントを推奨する。

日本語：MSゴシック、MS明朝

英語：Arial、Century、Century Gothic、Times New Roman

訃報

岩崎 明先生のご逝去を悼む

山口支部支部長 藤原 宣義



山口支部会員の岩崎 明先生が6月6日に脳出血のため逝去されました。享年84歳でした。

先生は昭和14年に美祢市伊佐町でお生まれになり、昭和37年、山口大学農学部獣医学科を卒業後、同年4月から山口県技術吏員として県種畜場に勤務されました。その後、衛生部に移動され、宇部保健所を振出しに、衛生研究センターで永年研究生活を送られ、平成12年に県を退職されました。

その後も私立の学校で永年にわたり衛生関係の知識を生かして後輩の教育に努められていました。

また、出生地の美祢市に於いては地域の方々のため役となり、圃場整備の推進等に尽力され、周囲から信頼を集めておられました。

獣医師会に対しましても監事や支部理事・副支部長などを歴任され、その発展に寄与されました。

5月26日にいつもと同様、美祢市の田圃の仕事に行かれ、帰途の途中、家の近くの車の中で倒れているのを発見されて緊急搬送されましたが、意識の回復がないまま6月6日未明に逝去されました。

今までは至って元気に過ごされておられたようで、ご家族の方は全く予期されないことで大変なご様子でした。

支部から先生あてに送った手紙を見られたご家族から連絡がありました。葬儀等は既に家族葬で済まされておられ、6月16日、田中会長・酒井常務理事とともに山口市黒川のご自宅に弔問に伺いました。

岩崎明先生の今までのご尽力・ご功績に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り致します。

お知らせ

今後の主な行事(予定)

- 7月4日 ・第1回小動物部会委員会 (小郡地域交流センター)
- 7月4日 ・山口県公衆衛生学会 (県総合保健会館)
- 7月12日 ・産業動物部会・獣医公衆衛生部会合同委員会 (小郡地域交流センター)
- 7月19日 ・日本獣医師会事務事業推進会議 (東京)
- 8月1日 ・第2回学会運営委員会 (山口市)
- 8月9日 ・中国地区獣医師会連合会臨時総会 (松江市)
- 8月25日 ・山口県獣医学会 (防長苑)

事務局だより

- 6月2日 ・自由民主党山口県支部連合会定期大会 (かめ福オンプレイス)
- 6月6日 ・獣医学術中国地区学会幹事会 (松江市)
- 6月6日 ・「災害時における動物の救護に関する協定」調印式 (下関市役所)
- 6月9日 ・定時総会 (防長苑)
- 6月12日 ・公衆衛生協会監査 (県獣会館)
- 6月15日 ・仮事務所移転
- 6月20日 ・会報編集委員全体会議 (小郡地域交流センター)
- 6月24日 ・山口県畜産振興協会定時総会 (JAビル)
- 6月26日 ・日本獣医師会通常総会 (東京)
- 6月28日 ・豊浦支部臨時総会 (サングリーン菊川)
- 6日・20日 事業推進会議

次回編集委員会 7月23日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第758号 令和6年7月10日 (毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷